

横芝の碑 (その二十七)

酪農の黎明・ヨンゲン号之碑

町村合併後の間もない頃だったと思います。当時松尾農業改良普及所の畜産担当技術員のかたから「大正初期、既に旧大総村と二川村（現芝山町の一部）では共同の酪農組合を結成した事実がある」という話をお聞きしていました。

乳前の牛を牧場等に売り、その差額を収益にする、という単純なものでした。邦蔵さんはこれに厭き足らず、自分で乳牛を飼育搾乳し更にこれを煮沸消毒をして、種や罐を肩に担って自家販売まで行な

売方式を採用したこともあったのです。この牧場は、場所が余り速かったこと等から、必ずしも成功とは言い切れないまま中止されてしまった、ということでした。しかし、終戦後の混乱の中に育った大総地域の青年が、自分達の研究活動資金源として、父母から何畝かの農地を借受ける、という、現在の契約栽培の草分けを実施し、又、自ら東京に販路を求めた出荷組合を結成する等の活躍や、此の



牛が死んだ時、その屍を自家所有地の山林に葬って碑を建て、これを慰らに吊ったのがこの碑だということとす。

写真は、その碑で、根府川石らしい自然石の、表には、県有種牡牛之碑、と刻まれ、脊面には、県有種牡牛ヨンゲンプリンス号、明治四十一年四月生、大正十年七月三日斃死、と刻まれています。

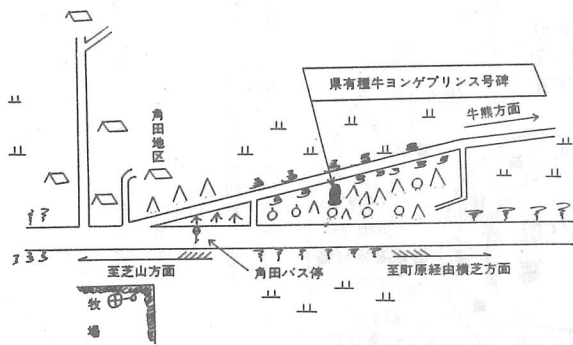
碑は邦蔵さんの孫に当る石橋瑞夫さん（町教育委員長）所有の山林の中腹に建っているのですが、その前に立って眼を瞑っていますが、すぐ足元辺りの草群を押し分けて、筋骨逞ましい県有の種牛が草鞋履の邦蔵さんに追われながら現れて来るような妄想が網膜の中を去来してなりません。

前に普及技術員からお聞きしている話と共通するものがあるのかもしれない」と考えましたので早速調査に乗り出して見ました。ところが、予想に違わず、それは、旧大総村を舞台にして繰広げられた先覚者達の活躍を伝える、特筆すべき事柄だったので。

つたりしていました。やがて家督を継ぐ様になり、大総村農会長に推れてからも、その情熱は益々旺盛になって、遂に隣接の二川村と相図り、二総酪農組合を結成したのですが、ここでも組合長に推され、まず手を付けたのが乳牛の品種改良でした。東奔西走の結果県有の優良種牛の導入に成功し、組合員各戸乳牛確保の夢を果し、更に牧場経営にも心血を注ぎ、一時は東京の千住に牧場を設け、東京市街地に販路を求めて、生産者直

附近一帯に展開されている畜産の振興を考えますと、邦蔵さん始め郷土の先覚者の進取の気性と、畜牛を愛した心は、連綿として後世に伝え残された、といえると思います。

酪農に情熱を掛けた邦蔵さんが畜牛を大切にすることは大変なものでした。特に県から借入れた種牛についての気遣いようは極端な位で、一日一度は必ず見まわらなければ帰宅をしないという程でした。それ位でしたから、この種



消火器の行商に注意!

最近、訪問販売で強引に家庭に入りこみ、消火器を売りつける悪質な販売員が増えています。

言葉たくみに「消防署から参りました」とか「防災担当の者です」といって「法律が変り家庭でも消火器を置かないと罰せられる」などとウソをつき売り歩いてる者があります。現在、消防署員が消火器の販売はしません。

家庭に消火器が設置されることは好ましい事ですが、特に法律上の義務はありません。不審な販売員の訪問をうけた時は消防署・警察にご連絡下さい。

文交協横芝支部受賞

去る十二月十日、県教育会館大ホールで行われた千葉県交通安全県民大会で成東地区交通安全協会横芝支部が県警本部長並びに県交通安全協会連合会長から表彰されました。今回の表彰は交通地獄といわれる交通渦の中で支部会員相互が一致協力して事故防止に尽力した功績によるものです。

また、個人では模範運転者に佐瀬嘉男（南川岸）さん交通安全功労者に海保房治（立会）さんの二名が選ばれました。